

行雲流水

No.197 令和4年4月14日発行

「ゴミを拾う」ということ

校長 寒河江 正人

昨日13日（水）、東根市教育委員会の「**教育方針説明会**」に出席した。
その席上、「**うれしい、うれしい話題**」を耳にした。

北村陽子教育委員さんがおっしゃるには、こういう話である。
お住まいの神町営団地区で、春恒例の「**道路清掃・ゴミ拾い**」を行うことになっていた。
昨年の秋から冬、そして春までの間に地区内の道路周辺には、**ゴミが目立っていた**という。

ところが、「**道路清掃・ゴミ拾い**」の日の朝を迎えた時には、**すでにゴミはなかった。**
きれいな状態になっていたという。何とも不思議な話だ。

実は、2年生の森谷悠世もりやゆうせいくんが、小学生の妹さんと「**ゴミ拾い**」をしてくれていたのだ。

生徒諸君もご承知のとおり、

本校の学校スローガンは、「**Think global, Act local. Be a glocalian.**」。

「**地球規模の視点・視野で物事をとらえ、考え、自分の住む地域の地域社会が抱える課題を解決しようと具体的に行動する人材の育成**」を目指している。

北村陽子教育委員さんも、かつては本校を支えてくださった保護者の一人。

地元の子どもたちの「**自主的・自発的な課題解決のための行動**」をうれしく感じたという。

生徒諸君も知っているだろう。

たとえば、「**海洋プラスチックごみ**」の問題は、「**世界が抱える解決すべき大きな課題**」だ。

この問題は、私たち一人ひとりの生活と直結しているではないか。

見て見ぬふり、気付かないふりは、もうできない。

だれかがやればいい、自分には関係ないという無責任は、もう通らない。

その一方で、私たちが住む神町地区の「**道路周辺のゴミ**」も身近な解決すべき課題」だ。

私たちが毎日生活する神町中学校の「**校内・校外**」にも「**ゴミ・ちり**」は、必ず生じる。

この問題も、私たち一人ひとりの生活と直結している。

これもまた、見て見ぬふり、気付かないふりはできない。

大切なのは、「自分にもできることがあるはず、まず何から始めようか。」という思いだ。